

科目	日本史B	単位数	4	学年	3	学級	全	学科	全
----	------	-----	---	----	---	----	---	----	---

学習の到達目標	日本の古代、中世、近世、近代の歴史の変遷を政治、社会、文化、国際関係などの視点から学び、国際社会の一員としての日本が今日、果たすべき役割について様々な歴史認識をふまえて考える。
使用教科書 副教材等	教科書: 詳説日本史B(山川出版社) 資料集: 新詳日本史(浜島書店)

学期	月	学習項目	学習内容の説明
前期	4	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	日本列島にどのような経緯で日本人が住み始め、また文化を生み出していったのかを理解する。 稲作の渡来によって貧富の差と身分が発生したと古代国家の誕生と大陸の結びつきについて理解を深める。
	5	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道 3. 平城京の時代 4. 平安王朝の形成	隋・唐・朝鮮との交流に注目しながら、日本の古代国家の変遷と律令体制の確立の過程を理解する。また大陸から仏教が伝来したことによる国内への影響について政治文化の側面から理解する。
	6	第3章 貴族政治と国風文化 1. 摂関政治 2. 地方政治の展開と武士	藤原摂関政治を他氏排斥と天皇家との結びつきから理解するとともに、律令制度の崩壊と、荘園の誕生に伴う武士の登場などを地方の動向に注目して理解する。
	7	第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と幕府の衰退	貴族から武士に権力が移行する様子を源平の争乱を通じて理解するとともに封建制度の成立と推移を理解する。また蒙古襲来という国家存亡の危機に直面した日本の社会が、その後どのように変化していったかを理解する。
	9	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 戦国大名の登場	南北朝の成立とその合体による政治的影響を理解する。また日本の諸地域の動向や日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭に注目して産業経済の発展や下克上の中世社会の多様な展開について理解する。
後期	10	第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 幕藩体制の成立	織田、豊臣、徳川氏によって日本の統一がおこなわれ、徳川幕藩体制によって武士の安定政権がつくられたことを理解する。また幕藩体制の政治経済・社会の仕組みについて理解する。
	11	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展	徳川幕府が政権の安定化を図り、どのような政策を推し進めていったのかを理解するとともに、政権の安定が人々の生活を豊かなものとし、どう経済の発展に寄与していったかを理解する。
	12	第8章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 幕府の衰退と近代への道	国内的には一揆や打ちこわしによって幕藩体制が動揺し、対外的には鎖国を揺るがす外圧が始まったことで幕藩体制が崩壊していく過程を理解する。
	1	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱	国際情勢を背景に開国した日本の社会が、どのような影響を受けたかを理解する。また、幕府に対抗する新たな政治勢力として台頭した薩長が、朝廷と結ぶことによって幕府を滅ぼしていく過程を理解する。

評価の観点及び評価の方法	関心・意欲・態度	日本の古代から近代までの歴史の変遷と政権、社会制度、文化等について関心を持ち、意欲的に取り組んだか。
	思考・判断・表現	日本の古代から近代までの歴史について、広い視野にたつて多面的に考察するとともに、日本を取り巻く国際情勢について客観的に認識することができるか。
	資料活用の技能	日本の古代から近代までの歴史について、いろいろな資料を様々なメディアを通じて身につけ、考察した過程や結果を自分の言葉で適切に表現できるか。
	知識・理解	日本の古代から近代までの歴史について、歴史の基本的な事項、人名、場所、原因と結果等について、その知識を身につけているか。
	評価方法	前後期とも中間考査と期末考査を実施して、その平均を考査点とする。各学期とも考査点7～8割、平常点(提出物、授業態度、出席状況等)を2～3割とする。
担当教諭から	歴史的事実には必ず原因と結果があります。いろいろな事件、出来事を偶発的なものとして捉えるのではなく、常に原因と結果を意識して学習してください。そうすれば単なる暗記科目としての日本史ではなくなるはずです。	